

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	辻 泉		
NAME	Izumi TSUJI		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記の通りご報告致します。

1. 研究課題

(和文)「限界芸術」化するアイドルについての総合的メディア論的研究

(英文) Comprehensive Media Studies of Idols Becoming 'Marginal Art'

2. 研究期間

2023年度 ~ 2024年度

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

アイドルは、日本社会に特徴的なメディア文化現象である。

他の先進的な社会では、映画や音楽、その他の文化ジャンルであれ、傑出した才能や外見、あるいはメッセージ性を持った、スターと呼ばれる存在が超越的な人気を博すことが一般的である。だが今日の日本社会では、そうした傑出した要素よりも、親近感と虚構性を併せ持ったアイドルと呼ばれる存在が人気を博しており、様々なメディア上において、その姿を見ない日は無い。

稲増龍夫や小川博司らの先駆的な研究によれば、高度経済成長期までは日本にもスターが存在したが、その後、各種メディアの普及や消費社会化とともに、1970年代以降にアイドルが登場してきた。だがこうした先駆的な研究や、特定の一時的な現象に着目した研究を除き、50年以上にも及ぶアイドルというメディア文化の歴史について、総合的に解明するような議論は存在しなかった。そこで本研究では、理論的には鶴見俊輔の「限界芸術論」（1967）を援用しながら、日本社会にアイドルが登場した背景やその後の変容、現状の分析を踏まえて、アイドルに関する研究、およびメディア文化それ自体の今後の展望を切り開くことを企図して行われたものである。

成果としては、各種のデータベースを用いて、日本及び中国におけるこれまでの「アイドル論」を整理しつつ、具体的な現象としては、ちょうど研究期間中と重複した、いわゆる「ジャニーズ問題」について、ファンたちの意識に関する実証的な調査研究を行い、論文にまとめた。

(英文)

Idols are a media culture phenomenon that is unique to Japanese society. This research, which draws on the 'Theory of Marginal Art' (1967) by Tsurumi Shunsuke, aims to open up new perspectives for research on idols and media culture itself, based on an analysis of the background to the emergence of idols in Japanese society, their subsequent transformation, and the current situation.